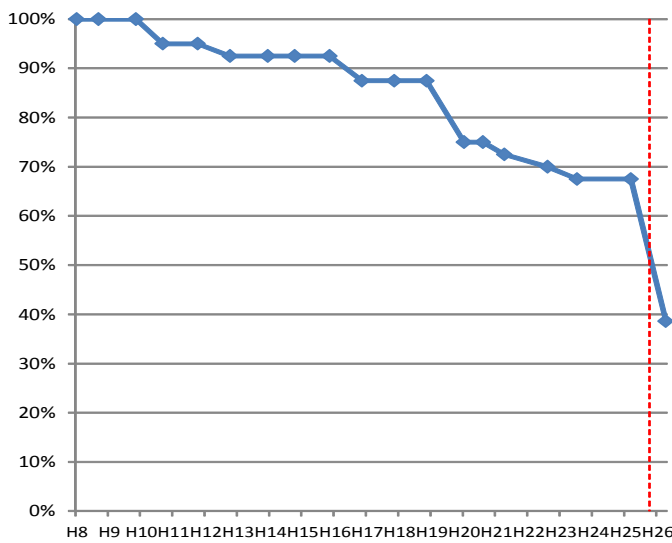


樹種名	コナラ（別名：ナラ、ハハソ）	
科 目	ブナ科	
学 名	<i>Quercus serrata</i>	
分 布	北海道、本州、四国、九州、国外では朝鮮半島、中国に分布する。 低山地や平地で雑木林に多く見られ、照葉樹林には混成して生える。	
樹木特性	陽樹であり、適潤で肥沃な土壌層の深い緩斜面に生育するものが最も旺盛に成長する。また、耐える力も強く、尾根筋またはこれに続く斜面に征夷するものも多い。伐採すると切り株から萌芽する。萌芽発生本数が最大となるような切り株直径は約 20 cm 未満で萌芽本数は 20 本程度である。さらに、萌芽発生が見込まれる最大の切り株直径は約 40~50 cm である。	
用 途	公園樹、建築・器具・薪炭材、しいたけ原木として利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	153 本 / 0.05ha (3,000 本 / ha)	
特 徴	<p>【樹形】 落葉高木であり樹高は 15m 程度に成長し、幹の径は 60cm 程度の大きさとなる。樹皮は灰色で、縦に不規則な裂け目がある。</p> <p>葉は長楕円形で、長さは 7.5~10cm 程度となり縁に鋸歯がある。花は 4 月から 5 月、若葉が広がる時に咲き、秋に実（ドングリ）が熟す。新葉の展開とともに花を咲かせる。</p> <p>雄花序は長さ 6~9cm、長く垂れ下がった尾状であり、1 つの花には 4~8 本の葯がある。雌花序は短く、当年枝の葉腋に出る。雌花序は最初 1cm ほど伸びて数個の雌花をつけるが、その後も伸びていくつかの花を付ける。多いものでは 10 個以上の雌花を咲かせるが、ドングリ（堅果）にまで成長するのは根元の 1~数個であることが多い。</p> <p>堅果は年内に熟す。基部は、小さな鱗片状の総苞片が瓦状についた殻斗（帽子）をかぶる。</p>	  
試験地での様子	ポット苗を植栽し、植栽後からコウモリガ及びカミキリムシ類の穿孔被害が発生した。植栽から 18 年が経過した現在の平均樹高は 14m 程度、上長成長・通直性ともに良好である。	
被 害	野兎・鹿の被害は特に無かった。植栽後にコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害が発生した。（延べ駆除本数 コウモリガ：29 本、カミキリムシ類 2 本）	

コナラ 現存率



【現存率】

植栽後からコウモリガやカミキリムシ類の穿孔被害による枯死が発生している。

林内の照度調整を図るため平成 20 年、23 年度に本数調整伐を実施した。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 38.6%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

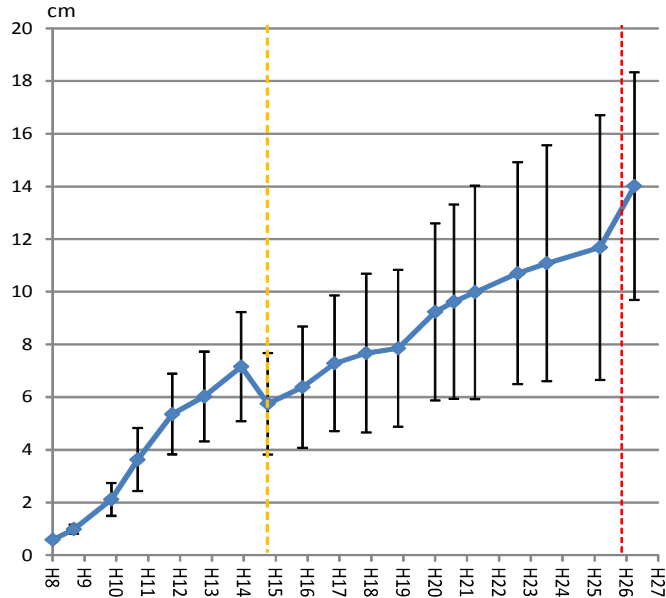
順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 14.01 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

コナラ 根元・胸高直径



【樹高】

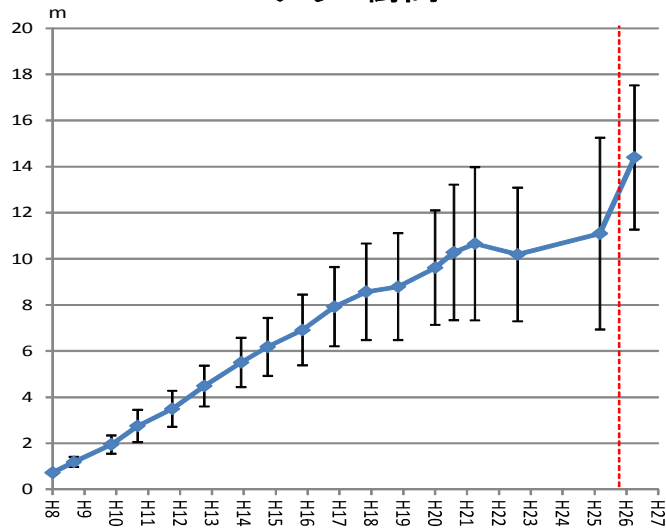
順調に成長している。

平成 23 年に平均樹高の数値が低下しているのは、樹高の高い個体が枯死したためである。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 14.40m であった。

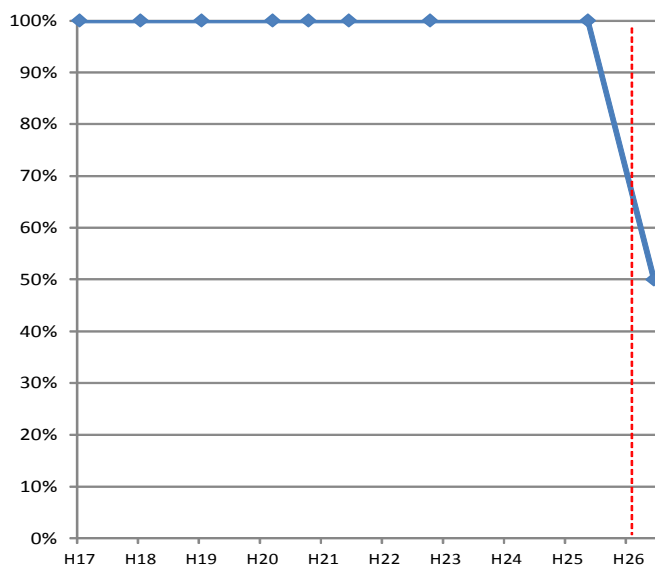
※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

コナラ 樹高



樹種名	コブシ	
科目	モクレン科	
学名	<i>Magnolia praecocissima</i>	
分布	九州、本州、北海道および国外では済州島に分布する。	
樹木特性	半陰樹であり、低地から山地にかけて生息するが、谷沿いの斜面に多い。 果実は集合果であり、にぎりこぶし状のデコボコがある。この果実の形状がコブシの名前の由来である。	
用途	公園樹、建築・家具・器具材として利用。	
植栽本数/面積 (植栽密度)	30本 (他樹種との混植)	
特徴	<p>【樹形】 落葉高木で高さは18m、幹の直径は概ね60cmに達する。3月から5月にかけて、枝先に直径6~10cmの花を咲かせる。 花は純白で、基部は桃色を帯びる。花弁は6枚。枝は太いが折れやすい。枝を折ると、芳香があり、樹皮は煎じて茶の代わりや風邪薬として飲まれる。 果実は5~10cmで、袋菓が結合して出来ており、所々に瘤が隆起した長楕円形の形状を成している。また、幹が多少曲がっており、葉も倒卵形ですこしざらつき、花期も違うのでタムシバとは比較的容易に区別できる。 世界的に花木として有名で、またほかのモクレン属の接木(つぎき)の台木として利用される。日本では漢方の辛夷(しんい)の代用品として使われる。</p>	
試験地での様子	普通苗を植栽し、植栽後から病虫獣害等も特に見られず、現存率、成長量ともに良好である。植栽から8年が経過し、隣接する樹木を被圧するほど枝張りが大きくなる。	
被害	野兔・鹿の被害は特に無かった。	 

コブシ 現存率



【現存率】

植栽後の自然枯死は無いが、枝張りが良好なことから植栽木同士の被圧が見られるため、平成 23 年度に本数調整伐 (5 本) を実施した。

本数調整伐を実施した以外の調査木の現存率は 100 % (H 25.6 時点) である。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、現存率は 50.0%であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

【根元・胸高直径】

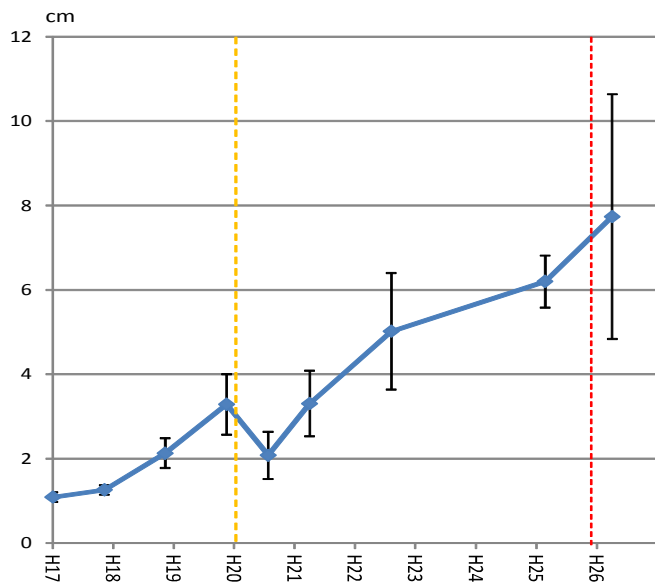
成長は良好である。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均胸高直径は 7.74 cmであった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

※ オレンジ線は、根元から胸高へと測定箇所変更のため、データの連続性はない。

コブシ 根元・胸高直径



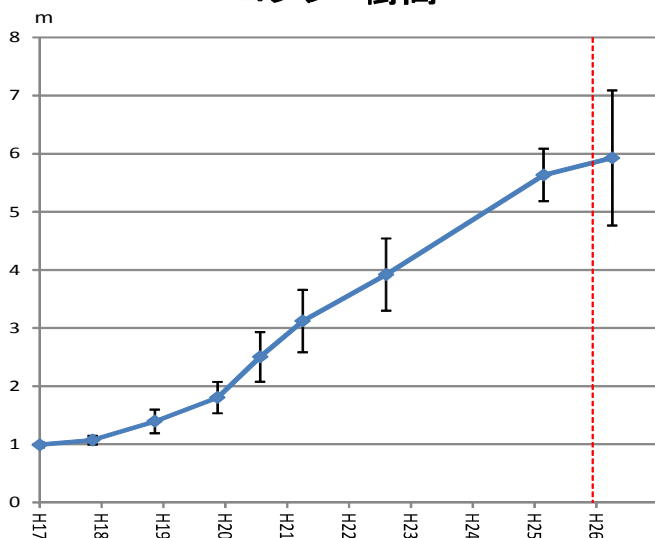
【樹 高】

順調に成長している。

平成 26 年度に毎木調査を実施した結果、平均樹高は 5.93m であった。

※ 赤線は、選定した調査木から毎木調査へと測定方法を変更したため、データの連続性はない。

コブシ 樹高



《プチ情報》

「コブシ」がそのまま英名・学名になっている。日本では「辛夷」という漢字を当てて「コブシ」と読むが、中国ではこの言葉は木蓮を指す。北海道のコブシは「キタコブシ」と呼ばれ区分する。遠くより見ると桜に似ていることから、花を咲かせる季節が桜より早いことから、ヒキザクラ、ヤチザクラ、シキザクラなどと呼ばれる。これらの呼称は北海道、松前地方を中心に使われる。アイヌ地方では「オマウクシニ」「オプケニ」と呼ばれる。それぞれ、アイヌの言葉で、「良い匂いを出す木」「放屁する木」という意味をもつ。